

Y18b

## 岩手大学「学校気象台」で記録された5月21日の日食時における盛岡市の気象変化

荒木田 英禎, 名越 利幸 (岩手大学)

2012年5月21日は日本の広い地域で金環日食が観測された。岩手県は金環日食帯から外れていたが、天候にも恵まれ食分が0.9を超える部分日食を観測する事が出来た。盛岡では6時26分27秒に食が始まり、7時43分12秒に食の最大を迎え、9時12分00秒に食が終了した。その際、食の進行に伴う空の明るさの変化だけでなく、気象変化をも感じる事ができた。

岩手大学では自動気象観測装置であるフィンランド VAISALA 社製 WXT520 を岩手大学と盛岡市内の小中学校5校の計6箇所に配置し気象観測を行う「学校気象台」の事業を行なっている。これら6地点の気象データは岩手大学情報処理センター内のサーバに蓄積され、インターネット上で公開されている (<http://meteo.iwate-u.ac.jp/>)。学校気象台で計測されている気象データは「気温」「湿度」「降雨量」「気圧」「風速」「風向」といったものである。

本発表では岩手大学学校気象台の定常気象観測によって記録されたデータを解析し、5月21日の部分日食時の盛岡市における気象変化について報告するとともに、今回得られたデータの教育への活用や授業展開への応用等についても議論したい。